

令和 6 年度事業報告

1 研究テーマ

酒造用原料米の酒造適性に関する研究

2 研究の現況・進捗状況

(1) 概要

酒米研究会は、原料米の酒造適性を総合的に研究すること及び当該酒造期に使用される原料米の性質をできるだけ早期に把握し、それぞれの原料米に適した酒造管理を行えるようにすることを目的としている。

主な活動は、酒米研究会総会及び酒米懇談会の開催並びに原料米の全国統一分析である。また、本会は酒類製造技術者のみならず、育種・栽培関係者、米に関する研究者等、広く酒米に関心を持つ者も会員として受け入れている。現在（令和 7 年 4 月 23 日）の会員構成は、267 名の個人と 8 機関から成っている。

酒米研究会については、令和 6 年 8 月 30 日（金）にオンラインで実施し、各支部での分析結果の活用状況及び分析法の課題等について活発な意見交換を行った。また、酒米懇談会については、令和 6 年 9 月 4 日（水）に、東京都北区滝野川会館大ホールにおいて現地開催した。（2）ハに掲げるように、5 名の講師先生に様々な観点から話題提供をお願いし、活発な意見交換がなされ参加者にとって大きな収穫になった。

令和 6 年度産原料米の全国統一分析については、酒類総合研究所が実施する早期（0 次）酒造適性分析のための試料として、酒類総合研究所に試料提供した。酒類総合研究所で実施された早期（0 次）酒造適性分析の結果について、詳細な解析を行い本年度の原料米の酒造適性情報として 12 月 24 日付で各支部に報告した。また、12 月上旬までに各支部において分析が終了した結果について取りまとめ、第 1 次の速報として 12 月 24 日付で、3 月末日までに終了した結果を第 2 次の結果として令和 7 年 4 月 23 日付で関係者に報告した。

(2) 研究会開催等

イ 令和 6 年度酒米研究会総会

- ① 書面表決 令和 6 年 7 月 18 日～8 月 19 日
- ② 議案：令和 5 年度事業報告、令和 5 年度収支報告及び令和 6 年度予算案、令和 6 年度産米の分析計画等

ロ 第 50 回酒米研究会

- ① 開催月日 令和 6 年 8 月 30 日（金）
- ② 方法：オンライン（Zoom）
- ③ 議案：令和 5 年度産米分析結果、酒造用原料米全国統一分析結果の活用と分析法の課題、その他

④ 参加者 22名

ハ 第47回酒米懇談会

① 開催月日 令和6年9月4日(水)

② 開催場所 東京都北区西ヶ原1-23-3 滝野川会館 大ホール

③ 講演内容：

1) 「高知県の酒米に関する取組と『土佐麗』の特性」

高知県工業技術センター 甫木嘉朗 先生

2) 「酒造会社から見た酒造用原料米全国統一分析」

菊姫合資会社 井出俊幸 先生

3) 「清酒製造における高温障害米への対応」

樋口松之助商店 山下秀行 先生

4) 「酒米品種を特徴づけるゲノム構造」

福島大学食農学類 吉田晋弥 先生

5) 「米澱粉の多様性を活かした高気温の影響緩和の可能性」

農研機構 食品研究部門 梅本貴之 先生

④ 参加者 47名

(3) 刊行物の発行等

・第47回酒米懇談会要旨集 (令和6年9月)

・令和6年度早期酒造用原料米全国統一分析解析結果 (0次) (令和6年12月24日)

・令和6年度酒造用原料米全国統一分析結果 (1次) (令和6年12月24日)

・令和6年度酒造用原料米全国統一分析結果 (2次) (令和7年4月23日)

(4) 研究連絡活動

(4-1) 原料米全国統一分析

イ 研究会支部の状況

原料米全国統一分析に参加しているグループ数は、令和6年11月28日現在で、試料の採取を依頼している機関を含めて28機関である。

ロ 令和6年産米の分析

① 早期分析(0次分析)のデータ解析

令和6年産米の早期酒造適性分析のための試料を酒類総合研究所に提供した(57点)。酒類総合研究所にて実施された酒造適性分析のデータ及び各支部からの造り初期の酒造概況、気象・収穫に関するデータを詳細に解析し、令和6年産米の性質の早期予測(0次)として令和6年12月24日付で関係者及び各支部に周知した。

② 1次分析

各支部において12月上旬までに分析の終了した原料米について結果をまとめ、0次分析結果と併せ令和6年度産原料米の性質を予報し、令和6年12月24日付で日本酒造組合中央会会長及び各支部等に報告した。

③ 2次分析

各支部において3月末日までに分析の終了した原料米について結果をまとめ、0次・1次結果と併せ合計84品種289点の結果を2次分析結果として、令和7年4月23日付で日本酒造組合中央会会長及び分析を担当した各支部等に報告した。

(4-2) ホームページ

酒米研究会ホームページ (<http://www.sakamai.jp/>) において、酒米分析結果のデータ及び結果概要を更新し、会員間で有効に活用された。